

8905 ロックン・ロールは、今さら改めて言うまでもなく・・・

ロックン・ロールは、今さら改めて言うまでもなく、アメリカで誕生したものであるが、現在、ロックの本場はアメリカではなくて、イギリスであると主張するファンも少なくない。実際、ロックの歴史を変えたビートルズは純粋にイギリス的な部分からスタートしたグループである。また、今日のロック界の情勢を考えてみても、イギリスの方がすぐれたロック・グループを多く輩出していることは事実である。

水上はるこ『スーパー・ロック・シーン』

[許容訳例]

It is hardly necessary to say that rock'n'roll was born in America, but not a few fans claim that today the true home of rock is not America but England. Indeed, the Beatles, who changed the history of rock'n'roll, were a group that started as something genuinely British. Moreover, when one considers the present state of rock'n'roll world, it is a fact that England is producing more outstanding rock'n'roll groups than America.

[翻訳例]

Rock'n'roll, as hardly needs repeating, first came into being in the United States, but quite a few fans claim that the true home of rock today is not America but England. Indeed, the Beatles, who changed the history of rock, were a group that started from purely English beginnings. Moreover, if one considers the present state of rock England is undoubtedly producing more outstanding rock groups than America.

■ロックン・ロールは、今さら改めて言うまでもなく、アメリカで誕生したものであるが、現在、ロックの本場はアメリカではなくて、イギリスであると主張するファンも少くない。(8905)

★「ロックン・ロール」は rock'n'roll ですが、一つのジャンルを表す単語ですから、いわゆる抽象名詞として扱うので無冠詞です。

★「今さら改めて言うまでもなく」は、辞書で「今さら改めて言うまでもなく」を引くと It is hardly necessary to say とか Nothing new to say などは出ていますが、たとえば、As you see, とか As I said yesterday などと同じように、普通は As is hardly necessary to say [repeat; point out] のように As で始めます。なお、Rock'n'roll, as is hardly necessary to repeat, … のように挿むと、日本語と同じ情報順になります。あるいは、as hardly needs repeating [pointing out] を使えばより簡潔でいいと思います。こういう決まった表現は自分で考えて作ってみるよりも、一つの決まったフレーズして覚えておく方がいいです。それから、この「今さら改めて」は強いて訳す必要はないと思いますが、repeat(ing)を使えば、その感じに近くなります。

★ 「アメリカで」は in America ですが、他に in the States; in the United States; in the U. S. などいざれも使えます。

★ 「誕生したものである」は was born でもかまいませんが、first came into being [existence] などの方がどちらかと言えば英語としては自然な感じです。また、辞書に have its origins という表現が出ています。それも非常にいいです。使うとすれば had its origins in America となります。

● [が] (逆接)

この [が] は「逆接」ですから but です。

★ 「現在」は today とか at present です。

★ 「ロックの本場」は the home of rock がいいでしょう。rock の代わりに it も可能ですが、ここは日本語通り rock を繰り返した方がいいような気がします。なお、home の意味を更に強めて the true home of rock (today [at present] is not…) としてもかまいません。この場合の home は勿論「故郷」という意味も含まれますが、at present を付けてもいいということからも分かるように「住んでいるところ、生活の中心になっているところ」という意味にもなるわけです。辞書で「本場」を引くと「主産地」として the home (of grapes) とか the best place for ~あるいは「中心地」として the center が出ていますが、ここで「本場」と言っているのは「中心地」という意味とは違って「本物が盛んに行われているところ」という意味ですから the (true) home を使うのが一番いいでしょう。

★ 「アメリカではなくて、イギリスである」は is not in America but in England でもいいですが、in を省いて the (true) home of ~ is not America but England としてもかまいません。

★ 「・・・と主張する」は claim とか、ちょっと意味が強くなりますが assert も使えます。もちろん say でもいいし insist は更に強くなる感じですが使えます。また maintain も辞書にあり、ここはどれを使っても英語として自然だと思います。

★ 「ファンも少なくない」は not a few fans…でもいいですが、quite a few fans…の方がいいでしょう。not a few というのはどちらかと言えばちょっと硬めの表現になります。quite a few という表現はちょっと「少なくない」に合わないように見えるかもしれません、この quite は「かなり」の意味で a few の「あることはある」という積極的な意味を強めることになります。なお、「少なくない」に not rare を使っても決して間違ひではありませんが、rare を使うと、「探せば出てくる」という感じで、ちょっとずれる感じがします。

● 「連体修飾節+体言」(・・・と主張するファンも少なくない)

「・・・と主張するファンも少なくない」は「連体修飾節(・・・と主張する)+体言(ファン)+も少なくない」ので、There are…の構文を使うなら、英語では「there are +名詞 (quite a few fans)+関係詞節(who claim…)」と続けることも出来ます。

■ 実際、ロックの歴史を変えたビートルズは純粹にイギリス的な部分からスタートしたグループである。(8905)

★ 「実際」は Indeed でしょう。代わりに Really は使えません。Really とか In fact とか

Actually というような言葉は特に会話でよく使うだけに、その時の前後の関係やイントネーションなどによって微妙に意味が変わりますから、非常に使い方が難しいです。それに対して Indeed は今言ったこと、あるいは相手の言ったことを確認する意味でしか使わないと思いますから、一番無難でしょう。

★「ロックの歴史」は the history of rock'n'roll でもいいですし、あるいは、こういう場合よく使うフレーズとして the whole history of ~があります。これを使うと「歴史が一変した」という感じが出ます。

★「変えた」は changed です。ここは別にある過去の時点をとらえてそれからさかのぼつた前のこととして述べているわけではありませんから過去完了にする必要はありません。

★「ビートルズ」は the Beatles ですが、語尾が複数形なので主語の場合は was ではなく were の方がいいでしょう。

★「純粹にイギリス的な部分」という言い方はちょっと曖昧です。前の文章から考えると、アメリカの影響を全然受けないで、純粹にイギリス的なものを題材にして自分達の音楽を作っていました、そしてロックン・ロールの流れがそれらの方に変わって行った、ということと、まさにイギリスでしかあり得ないようなもの、背景、土壤から生まれた、とも考えられます。たとえば、極端な場合かもしれません、アメリカでは何か一ついいグループが出るところがイギリスでは、このビートルズのように最初はリバプールで仲間が集まってやっていたものが、徐々に認められ真価を發揮していくといった点がまさにイギリスらしいものだと言っているような気もします。いずれにせよ、イギリスのものとしか言いようのない部分、イギリスだけのものとしてそもそも生まれた、ということでしょう。そうすると as something genuinely British とすれば「・・・な部分」が何を指すかよく分からないままでも、意味は通ると思います。あるいは from purely English beginnings でもいいでしょう。

★「からスタートした」は started from ~とか started as ~です。

●「連体修飾節+体言」(ロックの歴史を変えたビートルズ) (純粹にイギリス的な部分からスタートしたグループ)

「ロックの歴史を変えたビートルズは純粹にイギリス的な部分からスタートしたグループ」は二つの連体修飾節からなる文です。「ロックの歴史を変えたビートルズ」と「純粹にイギリス的な部分からスタートしたグループ」で、いずれも、英語では「名詞+関係詞節」で処理することになります。ただ、前者は名詞が the Beatles という固有名詞ですから、「名詞(the Beatles)+コンマ関係詞節(, who changed the whole history of rock)」にします。コンマを打たないと「ロックの歴史を変えなかったビートルズ」も存在することになります。後者の名詞は「普通名詞」ですから「名詞(a group)+関係詞節(that started from ~)」です。

■また、今日のロック界の情勢を考えてみても、イギリスの方がすぐれたロック・グループを多く輩出していることは事実である。(8905)

● [また]

[また]は And を使っても間違いではありませんが and では「～を考えてみても」の「も」の意味が出ないので、ここは Moreover を使うといいでしよう。

★「今日のロック界の情勢」は today's situation of the rock'n'roll world としたくなります
が、普通 today's situation of ではなく、the present situation in ~か、あるいは the present
state of ~です。この「～の情勢」という言葉は、文脈によっては conditions とか circumstances
なども使えますが、ここではやはり situation in ~か state of ~がいいでしよう。

★「考えてみても」は considering…とするとどうしても次に I should say that…と続けたく
なりますから、ここは when [if] one considers とした方がいいと思います。つまり「～を考
えて」と「～を考えると」の違いです。

★「すぐれた」は excellent でもかまいませんが、一番安心して使えるのは outstanding だ
と思います。

★「ロック・グループを多く輩出している」は「現在の状態」として is producing でもいい
し、「いつものこと」として produces も使えます。England is producing more outstanding
rock'n'roll groups than America.です。

★「・・・は事実である」は it is a fact that…としてもいいし、it is true that…としてもいい
ですが、主観的判断は副詞を使って England is undoubtedly producing more [a larger number
of] outstanding rock groups than America.とした方が英語的です。